



狭丘後援会 広報

第 51 号

発行所
狭山ヶ丘高等学校後援会
同付属中学校
発行責任者 原島伊佐夫
編集 広報部
〒358-0011 入間市下藤沢981
TEL (04) 2962-3844



『今年を振り返って』

後援会会長 原島伊佐夫

会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。また平素より、狭山ヶ丘学園後援会の活動に御理解を頂きまして誠に感謝申し上げます。

さて、早いもので今年も師走となり、残り僅かとなりました。振り返りますと本年は、世界的に予想を裏切りました大きな事象が、二つありました。

一つ目は、六月イギリスでの国民投票によるEU離脱（ブレグジット）です。当時政権を担当していましたが、キャメロン英国首相は、EU離脱に反対でありました。

二つ目は、十一月アメリカ大統領選挙です。マスコミ各社の多くの予想を反し、不動産王ドナルド・トランプ氏が勝利いたしました。

プ氏が勝利いたしました。この二つの事象は、二つの国家の一大事でありましたが、一つの共通性を見出すことが出来ました。それは、組織にとつて長たる者の『判断』と『強さ』です。

判断を誤りますと組織の長は、その座を去らなければなりません。イギリスのキャメロン首相は、首相を辞めました。またこの度、イタリアのレンツイ首相も、判断を見誤り辞職いたしました。

この二人は、国家の一大事を自分で決めずに、国民投票（レファレンダム）に委ね、判断を見誤りました。この二人が『強さ』を發揮し、国政による判断をしていたならば、結果は自ずと異なっていたはずで

一方、アメリカのドナルド・トランプ氏は、泡沫候補から選挙戦での『過激な発言』を武器に、大統領選挙をあれよあれよという間に勝利しました。この『過激な発言』こそ、ドナルド・トランプ氏を勝利へと導く『判断』でありました。トランプ氏の発言は、まさに『強いアメリカ』の復権であり、『強さ』を強調しています。もちろん経済的な実績も背景としてありますが...

その『判断』と『強さ』において、当校は、木下理事長先生とカリスマ的教育者である小川校長先生のもと、学校全体がひとつになつて躍進を続けております。例えばそれは、学生の募集状況・子供たちの生活態度・



我に天下の志

校長 小川 義 男



取材で熊本を訪れた。第五高等学校（現熊本大学）には、夏目漱石が、英語教師として着任した。当時29歳、東京帝大文学士の彼が、どれほど大きな存在だったかは、想像するに難くない。

旧制高等学校は、中学四年で受験できた。受ければ「四修」として、秀才の名を恣にした。落ちれば五年卒業時に、再度受験できた。旧制高等学校は三年制、卒業後は、ほぼ確実に、望む旧制大学に進学できた。そのプライドは大変なものであった。

この「五高」の、緑豊かな

前庭に、漱石の座像がある。石に刻んで、「秋はふみ我に天下の志」とある。

文学士の彼にして、この気概である。「秋は本を読み、落ち葉を踏む。そして天下への気概を抱き続ける。」

若き漱石の心意気に、明治のヒロイズムを見る思いがして、心が温かくなった。

彼は、ここから、文部省派遣学生として渡英する。ペーカーストリートの近くだったので、私も立ち寄った。小さな部屋である。小柄な漱石は、この地で様々な逆境を体験する。

船で渡らなければならない

かった時代だ。彼の作品「ロンドン塔」を読むと、逆境にめげず、学ぶべきを学び通した、漱石の心意気に触れる事ができる。

漱石は短命であったが、これほど偉大な作家を、我が国は他に知らない。比肩すべきは森鴎外であろうか。

卑小に生きるな、大きな志を持つて生きよ。卒業生すべての諸君に、そう呼びかけたい。漱石が抱いた、「天下の気概」、落ち葉踏み、読書に耽り、常に大いなる明日を目指す、明治の気概を、我々も失いたくないものである。

昨年度の進学実績からみても、容易に判断できません。

私ども後援会といたしまして、小川校長先生と『方向と力』、すなわちベクトルを合わせ、ともに進

んで行きたいと考えております。

結びに、後援会といたしましては、今後も高校・付属中学と共に発展・拡大を目指しますので、どうぞ会

員の皆様の御支援と御協力を引き続き御願ひさせて頂き、年末の挨拶とさせていただきます。

第57回狭丘祭

実施日 平成28年9月10日～11日



▲焼きとうもろこし班
▲だんご班



狭丘祭に参加して 師岡成美

九月十・十一日に、第五十七回狭丘祭が行われました。後援会役員に立候補してから初めての大会「狭丘祭」への参加に、胸をはずませておりました。

後援会の活動内容は、例年通り「じゃがバター」「焼きとうもろこし」「だんご」の販売をしました。この夏、まれにみる台風の影響で、じゃがいもやとうもろこしの調達に校長先生をはじめ先生方や担当役員も頭を悩ませる姿を見て、どうなる事かと気が気で無かったのですが、当日は段ボールいっぱい食材が用意されており、ホット胸を撫でおろしました。

私は「じゃがバター」販売に参加しました。二百キロ近いじゃがいもを皮ごと四等分に切り、せいろで蒸す。蒸し上がったものを一つのカップに三ヶ／四ヶ入れ、バターをのせる。お好みで一味加えていただく為に、マヨネーズと醤油をテールに添えました。販売開始から飛ぶように売れ、作っても追いつかない程で



▲じゃがバター班

した。何回も何回も買いに来てくれた生徒さんが何人もいらつしやいました。お客様が途切れたときは、箱にいっぱいカップをのせ、校舎内を声を張り上げ売りに出回ると、あつという間に完売の大人気商品でした。後援会役員として知り合えた保護者の方達と一丸となり、夢中で取り組む楽しさを味わうことが出来、とても有意義な二日間を過ごさせて頂きました。来年も是非とも参加したいと思います。

高校総体埼玉県予選を振り返って

サッカー部主将 三年A組 西田 航太

我々サッカー部は、高校総体埼玉県予選で3位という成績を修めました。今大会では前回の関東大会埼玉県予選で3位になったためのシード校として大会をスタートしました。本校サッカー部の歴史を見てもベスト4シードはなかったのでもいつもと違った大会の入り、感じたことのない周囲の期待やプレッシャーがありました。

大会では初戦から厳しい試合が続きましたが、初戦・ベスト16をともに2-1で競り勝ち、ベスト



ト8は3-1で勝利しました。準決勝ではその後の全国大会で3位になった、昌平高校に1-1の延長PKで敗れてしまいました。本校サッカー部の歴史上初の3位で大会を終えました。



3位になれた背景には選手一人ひとりの意識の改善がありました。それは、メンバーは目標の「埼玉県制覇」から逆算して練習したこと、メンバー外は応援でも勝ちにこだわったこと、応援してくれる親・先生・仲間へ恩返ししようと思ったことです。この経験から

一人ひとりの役割は違えど、チーム全員で一丸となり、応援してくれる人に感謝の気持ちを持って日々取り組むことの重要性を知りました。
がんばれ



今大会では3位で、あと一步のところまで全国大会には行けませんでした。サッカー部の目標は全国大会なので、誰一人この結果に満足していません。後輩たちには普段の学校生活からチームワークを大切に、日々感謝の気持ちを持って取り組み、来年こそは「全国大会出場」の夢を叶えてほしいです。

西関東大会に出場して

平成28年度未管コンサートマスター
三年H組 吉田 好那

わたしたち吹奏楽部は、9月に群馬県で行われた西関東吹奏楽コンクールにおいて銀賞を受賞することができました。10年ぶりとなる西関東大会出場ということでも多くの方々から祝福のお言葉をいただきました。それは、私たちにとって大きな励みとなりました。しかしこの大会に進むまでの道のりは決して平坦なものではありませんでした。

53人全員が12分間集中し、1つの音楽を演奏するということはとても難しいことだと改めて感じました。また、全員の方向性を統一するために、長い時間をかけて繰り返し話し合いをしました。地区大会の一週間前に行った最後の話し合いで部員一人ひとりの考えを聞き、それぞれがコンクールにかける思いを知ることで、まじりました。何ヶ月もあつた練習期間があつたという間に終わり、迎えた地区大会は、無事に上の大会へと進むこと



とができ、県大会では自分たちの演奏に近いものが出せたと思います。例年では、県大会後から新体制となり、3年生は受験勉強に力を入れている時期でした。しかし今年は一ヶ月間も練習時間が伸びたことで、どのように練習していくべきか分からず、苦勞したことを覚えています。そして結果は銀賞でした。初めての舞台での演奏ということで、緊張や不安から練習通りの演奏ができませんでした。悔しさだけが残り、西関東大会は終わってしまいました。しかし西関東大会へ進めたことは私たちにとても良い経験となりました。全国大会へ進んだ高校などの演奏を聴き、より高いレベルの音楽がしたいと思いました。最後に、私たちが西関東大会という大きな舞台に立てたのは、顧問の先生をはじめとする学校の先生方やOB、保護者の方々、そしていつも私たち吹奏楽部を応援して下さる方々の支えがあつたからだと思います。これからも多くの方々への感謝の気持ちを忘れず、高い目標をもって努力していきます。



一年間の活動を振り返って

女子バレーボール部主将 三年H組 杉浦るい

私たち女子バレーボール部はこの1年間たくさんの試合を経験させていただき、大きく成長することができました。そのきっかけが、初出場を決めた全国私学大会でした。全国の強豪校と対戦させていただき、全国の力を身近に感じたことで、インターハイや選手権大会へ出場したい思いがより強くなりました。



今年のチームのスタートの大会である新人戦県大会は、私たちの武器である速攻バレーを優位に展開でき、決勝に進出しました。決勝では相手の高さやパワーに圧倒され、優勝することはできませんでしたが、優勝するためには何が必要か、みんな考えて、日々前進するようにたくさん練習を積



選の悔しさをバネに、4ヶ月間攻撃パターンを増やし、確実に進化したという自信を持って予選当日を迎えました。結果は第3位と目標には届きませんでしたが、今までやってきたことに自信と誇りを持ち、全員一丸となって笑顔でプレーし、自分たちの持つ力を出すことができました。



み重ねました。春に行われた関東大会県予選では、2年連続関東大会出場という結果は残したけれど、目指すバレーができず、少し悔しさの残る大会でした。最大の目標としていたインターハイ予選が1ヵ月後に迫っていたので、より攻撃の精度を高める練習を重ねました。インターハイ予選では2チームが全国大会に出場できますが、第3位で目標は果たせませんでした。私たちが3年生にとっては11月に行われる選手権予選が負ければ最後の大会になるので、このインターハイ予

多くの方々に支えられ、このような経験をさせていただいたことに深く感謝します。後輩たちには達成できなかった目標を達成して欲しいです。今後とも応援よろしく願っています。

狭山ヶ丘高校
ファイト!

VOLLEYBALL

